

全国訪問歯科研究会（加藤塾）2021 関西大会 ナイトセッション

大分県大分市 社会医療法人敬和会 大分リハビリテーション病院 歯科衛生士 衛藤恵美

『回復期リハビリテーション病棟における口腔管理の現状と課題』

社会医療法人敬和会大分リハビリテーション（以下、リハ）病院は、2016年の回復期リハ病棟開設当時から歯科衛生士（以下、DH）が常勤で現在3名が勤務している。また、回復期開設当初より地元歯科医師会である大鶴歯科医師会と医科歯科連携を締結している。DHは患者入院時より口腔評価を行い、必要に応じて訪問歯科診療を依頼し、医科歯科連携により登録された歯科医師と当院スタッフとの橋渡し役を担っている。そのような中、以前勤務していたリハ病院での経験も含め、回復期リハ病院における医科歯科連携と歯科介入の必要性をあらためて痛感している。更には、黒岩メソッドによる口腔ケア・リハや多職種との協働によるチーム医療の重要性を実感している。今回、これまでの医科歯科連携の実績及び口腔機能が退院先やADLに及ぼす影響について調査研究した結果も踏まえ報告する。

静岡県浜松市 糟谷歯科医院根上がり松診療所 歯科医師 糟谷政治
袋井みつかわ病院 歯科衛生士 松本 香

『口腔リハと改造義歯 オーラルディスクネージアの1症例』

20年程前私達歯科衛生士と歯科医師の集まり（コスモス）が、浜松市内の老健施設（白梅ケアホーム）にボランティア訪問して口腔ケアをした事が地元の新聞に掲載されました。静岡県が誇る世界の米山武義先生のプロフェッショナル・オーラルヘルスケアの論文がランセットに掲載され、歯科界では口腔ケアという言葉は認知されつつありましたが、当時の新聞には全く口腔ケアという言葉は無く、歯磨き指導と書かれており、現在では当たり前の口腔ケア・口腔リハの認知はまだまで、加藤塾函館大会（1回目）会場で、糟谷先生が義歯作製と口腔リハ、どちらが先ですか？と黒岩先生に真剣に質問していた時代でした。現在なら皆さん普通に、ケースバイケースと答えられると思います。

今回大会長の三木先生からナイトセッションでオーラルディスクネージアの口腔リハ&義歯治療の発表の依頼があり、数年前の症例ですが提示させて戴き、皆様のご意見・ご感想を頂戴致したいと思っております。

香川県高松市 医療法人社団駿陽花 しもむら歯科医院 歯科医師 下村隼人

『多職種連携で示す義歯の価値と在宅医療で示す歯科の力』

近年、在宅で療養されている方の増加に伴い在宅医療において歯科に対するニーズが増加している。その内容は診療室で行う歯科一般診療をはじめ摂食嚥下リハビリテーション、理学療法学、栄養学など多様な知識が求められている。「なんのために」我々歯科が在宅診療に介入するのかを考えたとき、患者の「食べること」を支える事で結果を残すことが第一優先事項と思える。

今回、お話をさせていただく内容は私が在宅診療で担当した患者さん2名を通して紹介させていただきます。一人は北見大会で発表させていただいた方。一人は在宅医療での経口摂取への取り組みです。どちらの方もPEG増設から経口摂取が可能になり、希望を取り戻した方です。このお話を通して私の訪問歯科診療への思いをお伝えできれば幸いです。